

平成16年度冬作(麦類・いぐさ・水稻刈跡)関係 除草剤・生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

平成16年度冬作関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成17年9月13日(火)、鈴乃屋ホールにおいて開催された。

この検討会には、試験場関係者21名、委託関係者23名ほか、計74名の参集を得て、除草剤の作用性試験7薬剤(17点)及び、

適用性試験35薬剤(136点)について、試験成績の報告と検討が行われた。

実用化についての判定結果及び使用基準は、次表に示す通りである。

平成16年度 冬作関係除草剤・生育調節剤試験判定および使用基準

A. 除草剤

(1) 小 麦

薬剤名	試験 種類	判 定	使 用 基 準						継続の内容	
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用地域		使用上の注意
1. BCH-046 フロアブル剤 新規化合物 500g/L	作用性	—								
2. BCH-047 フロアブル剤 ジフルフェニカン40g/L 新規化合物 500g/L	作用性	—								
3. DPX-16 顆粒水和剤 チフェンスフロロメチル 75%	適用性	実・ 継 (従 来 通 り)	一年生広 葉雑草、ス ズメノテッポウ	土壌ま たは茎 葉兼土 壌	播種後～節 間伸長前 スズメノテッポウ 5葉期まで	5～10g 散布水量 50～100L (播種後 ～小麦2 葉期処理 は水量 100L、10g の小麦3 葉期以降 の処理は 水量25～ 100L)	全土壌 (砂土を 除く)	東北～四 国	1) 単用での茎葉処理の 場合は、7.5～10g/10 aでの使用が望まし い。 2) 少量散布(25L/10 a)の場合は専用ノズ ルを使用する。 3) 播種後処理ではヤム グーに効果が劣る。 4) 処理後散布器具をよ く洗浄する。	・ 散布水量の拡大
					小麦1葉～ 節間伸長前 スズメノテッポウ 5葉期まで			九州		
					幼穂形成期	7.5～10g 散布水量 100L		北海道		
			カサノコグサ	茎葉	小麦1葉～ 節間伸長前 カサノコグサ 1～3葉期	10g 散布水量 100L	九州	1) 土壌処理剤との体系 処理で使用する。		

注) _____は、拡大される部分を、.....は、一部拡大されることを示す。

薬剤名の _____は、初めて使用基準が作成されることを示す。

(1) 小 麦 つづき

薬剤名	試験 判定 種類	使 用 基 準							継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
4. DPX-16 顆粒 水和剤+MCPA 液剤 チフェンスルフロメチル 75% MCPAナトリウム塩 19.5%	適用性	継							・効果、被害の確認
5. DPX-16L 細粒剤 チフェンスルフロメチル 0.15%	適用性	実・継 (従来通り)	一年生広 葉雑草、ス ズメノテッポ ウ	土壌	播種後～小 麦3葉期 雑草発生前 ～発生始期	4～5kg	全土壌 (砂土を 除く)	北陸以西 1) 砕土、整地、覆土を ていねいに行って、 均一に散布する。 2) ヤエムグラに効果の劣る 場合がある。 播種後処理の場合は ヤエムグラに有効な剤と の体系処理を行う。	・地域拡大
6. Hoe-866 液剤 グルホシネート 18.5%	適用性	実	一年生雑 草	茎葉	耕起前7～ 14日 播種後出芽 前 雑草生 育期 小麦生育期 雑草生育期 (圃場周縁)	300～500 mL 散布水量 100～150 L	全土壌 東北以南	1) 周辺作物に飛散しな いように注意する。	
7. MK-243U (H) 乳剤 ベ'フル'タミド (UBH-820) 25% インダ'ノファン 25%	適用性	実・継	一年生雑 草	土壌 茎葉	播種後出芽 前 雑草発 生前 小麦1～2葉 期	60～100 mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を 除く) 北海道	1) 葉に白斑を生じる場 合がある。 2) 播種後処理では、低 薬量でイソキサリに効果 が劣る。	・東北以南での効 果、被害の検討
8. MON-93A 液剤 グリホサートアンモニウム 塩 33%	適用性	実 (従来 通り)	多年生イ ネ科雑草	茎葉	耕起7日以 前 雑草生育期	250～500 mL 散布水量 25～100L	全土壌 北海道	1) 少水量散布の場合は 専用ノズルを使用す る。 2) 周辺作物に飛散しな いように注意する。	

(1) 小 麦 つづき

薬剤名	試験判定 種類	使 用 基 準							継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
9. MON-96A 液剤 グ リホサートアンモニウム 塩 41%	適用性 実・継	多年生イネ科雑草	茎葉	耕起3日以前 雑草生育期	250～500 mL 散布水量 25～100L	全土壌	北海道	1) 少水量散布の場合は 専用ノズルを使用する。 2) 周辺作物に飛散しない ように注意する。	・ 出芽前処理の低 水量散布での年 次変動の確認
		一年生雑草		耕起10日以前 雑草生育期					
				播種後出芽前 雑草生育期					
10. NC-613 乳剤 既知化合物A 60% 既知化合物B 1.5%	作用性 一								
11. NC-614 乳剤 既知化合物C 45% 既知化合物B 1.5%	作用性 一								
12. NH-007 フロアブル剤 ピラフルフェニチル 0.16% グ リホサートイソプロピ ルアミン塩 30%	適用性 実	多年生イネ科雑草	茎葉	耕起7日以前 雑草生育期	500～1000 mL 散布水量 100L	全土壌	北海道	1) 周辺作物に飛散しない ように注意する。	
		一年生雑草			400～600 mL 散布水量 100L				
13. RPJ-445 フロアブル剤 ジフルフェニカン 500g/L	適用性 実・継 (従来通り)	一年生広葉雑草	茎葉	小麦生育初期 広葉雑草2～4葉期	10～15mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除く)	北海道	1) 体系処理；イネ科雑 草に有効な既登録除 草剤との組合せで使 用する。	・ 播種後処理の効 果、葉害の確認
					15～25mL 散布水量 100L	東北～四 国			
						壤土～埴 土	九州		

(1) 小 麦 つづき

薬剤名	試験判定 種類	使 用 基 準							継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
14. WOC-01 液剤 グリホサートイソプロピルアミン塩 41%	適用性・実・継	多年生イネ科雑草	茎葉	耕起7日以前 雑草生育期	500mL 散布水量 100L	全土壌	北海道 東北以南	1) 少水量散布の場合は 専用ノズルを使用する。 2) 周辺作物に飛散しないように注意する。	・ 出芽前処理における低水量散布での年次変動の確認
		一年生雑草			250～500 mL 散布水量 100L				
					播種後出芽前 雑草生育期 250～500 mL 散布水量 25～100L				
15. ZK-122 液剤 グリホサートカリウム塩 43%	適用性・実・継 (従来通り)	多年生イネ科雑草	茎葉	耕起3日以前 雑草生育期	500～750 mL 散布水量 25～100L	全土壌	北海道	1) 少水量散布の場合は 専用ノズルを使用する。 2) 周辺作物に飛散しないように注意する。	・ 圃場周縁処理の効果、薬害の確認
16. トリフルアリン 乳剤 トリフルアリン 44.5%	作用性・実・継 (従来通り)	一年生雑草(ツクサ、 ヤブツルグサ、 キ、アブラナ科雑草を除く)	土壌	播種後出芽前 雑草発生前	200～300 mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除く)			・ 中耕培土後処理での効果、薬害の確認
17. トリフルアリン 粒剤 トリフルアリン 2.5%	作用性・実・継 (従来通り)	一年生雑草(ツクサ、 ヤブツルグサ、 キ、アブラナ科雑草を除く)	土壌	播種後出芽前 雑草発生前	4～5kg	全土壌 (砂土を除く)			・ 中耕培土後処理での効果、薬害の確認
18. KNW-504 顆粒水和剤 フルフェナセット 60%	適用性・実	一年生雑草	土壌	播種後出芽前 雑草発生前	30～50g 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除く)	東北以南	1) 砂質土壌では薬害が生じる場合がある。 2) ナギシコ科、アブラナ科雑草に効果が劣る。	
				小麦1～2葉期					

(1) 小 麦 つづき

薬剤名	試験判定 種類	使 用 基 準							継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
19. RSH-44 乳剤 ジフルフェニカン 3.7% トリフルラリン 37%	実・継 (従来通り)	一年生雑草	土壌	播種後出芽前 雑草発生前	150～250 mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除く)	北海道	1) 碎土、整地、覆土を ていねいに行って、 均一に散布する。 2) 葉に白斑を生じる場 合がある。	・低薬量での効果 の確認 ・処理時期、地域 拡大
					200～250 mL 散布水量 100L		東北以南		
					100～150 mL 散布水量 100L		北海道		
					200～250 mL 散布水量 100L		東北、北 陸		
20. NC-616 乳剤 エスプ [®] ロカルブ [®] 60%	作用性	—	—	—	—	—	—	—	—
21. YF-65L 液剤 ジクワットジブ [®] ロミド [®] 7% パ [®] ラコートジ [®] クロリト [®] 5%	実・継 (従来通り)	一年生雑草	茎葉兼 土壌	耕起前 雑草生育期	600～ 1000mL 散布水量 100L	全土壌	—	1) 周辺作物に飛散しな いように注意する。	・圃場周縁処理で の効果、葉害の 確認
				播種後出芽前 雑草生育期			関東以西		

(2) 大 麦

薬剤名	試験判定 種類	使 用 基 準							継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
1. AK-01 液剤 グリホサートイソブ [®] ロビ [®] ルアミン塩 41%	適用性	—	—	—	—	—	—	—	・効果、葉害の確認

(2) 大 麦 つづき

薬剤名	試験判定 種類	使 用 基 準							継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
2. DPX-16 顆粒水和剤 チフェンスルフロニメチル 75%	適用性 (従来通り)	一年生広葉雑草、スズメノテッポウ	土壌または茎葉兼土壌	播種後～節間伸長前 スズメノテッポウ 5葉期まで	5～10g 散布水量 50～100L (播種後～大麦2葉期処理は水量100L)	全土壌 (砂土を除く)	東北～四国	1) 単用での茎葉処理の場合は、7.5～10g/10aでの使用が望ましい。 2) 播種後処理ではヤムグウに効果が劣る。 3) 処理後散布器具をよく洗浄する。	・ 散布水量の拡大
				大麦1葉～節間伸長前 スズメノテッポウ 5葉期まで			九州		
		カズノコグサ	茎葉	大麦1葉～節間伸長前 カズノコグサ 1～3葉期	10g 散布水量 100L		九州	1) 土壌処理剤との体系処理で使用する。	
3. DPX-16L 細粒剤 チフェンスルフロニメチル 0.15%	適用性	一年生広葉雑草、スズメノテッポウ	土壌	播種後～大麦3葉期 雑草発生前～発生始期	4～5kg	全土壌 (砂土を除く)		1) 碎土、整地、覆土をていねいに行って、均一に散布する。 2) ヤムグウに効果の劣る場合がある。 播種後処理の場合はヤムグウに有効な剤との体系処理を行う。	
4. Hoe-866 液剤 グーリホサートアンモニウム塩 18.5%	適用性	一年生雑草	茎葉	耕起前7～14日	300～500 mL 散布水量 100～150 L	全土壌		1) 周辺作物に飛散しないように注意する。	
				播種後出芽前 雑草生育期					
				大麦生育期 雑草生育期 (圃場周縁)					
5. MON-96A 液剤 グーリホサートアンモニウム塩 41%	適用性 (従来通り)	一年生雑草	茎葉	耕起10日以前 雑草生育期	250～500 mL 散布水量 25～100L	全土壌		1) 少水量散布の場合は専用ノズルを使用する。 2) 周辺作物に飛散しないように注意する。	
				播種後出芽前 雑草生育期					

(2) 大 麦 つづき

薬剤名	試験 種類	判定	使 用 基 準						継続の内容	
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用地域		使用上の注意
6. ZK-122 液剤 グリホサートカリウム塩 43%	適用性	実・継	一年生雑草	茎葉	耕起7日以前 雑草生育期	250～500 mL 散布水量 25～50L	全土壌		1) 専用ノズルを使用する。 2) 周辺作物に飛散しないように注意する。	・ 散布水量の拡大 ・ 圃場周縁処理での効果、葉害の確認
7. トリフルアリン 乳剤 トリフルアリン 44.5%	適用性	実・継 (従来通り)	一年生雑草(ツユクサ、 カヤツリグサ、 オ、アブナ科雑草を除く)	土壌	播種後出芽前 雑草発生前	200～300 mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除く)			・ 中耕培土後処理での効果、葉害の確認
8. トリフルアリン 粒剤 トリフルアリン 2.5%	適用性	実・継 (従来通り)	一年生雑草(ツユクサ、 カヤツリグサ、 オ、アブナ科雑草を除く)	土壌	播種後出芽前 雑草発生前	4～5kg	全土壌 (砂土を除く)			・ 中耕培土後処理での効果、葉害の確認
9. KNW-504 顆粒水和剤 フルフェナセト 60%	適用性	実	一年生雑草	土壌	播種後出芽前 雑草発生前 大麦1～2葉期	30～50g 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除く)		1) 砂質土壌では葉害が生じる場合がある。 2) ナデシコ科、アブナ科雑草に効果が劣る。	
10. YF-65L 液剤 ジクワットジプロミド 7% バクコートジクロリド 5%	適用性	実 (従来通り)	一年生雑草	茎葉	耕起前 雑草生育期 播種後出芽前 雑草生育期 大麦生育期 雑草生育期 (圃場周縁)	600～ 1000mL 散布水量 100L	全土壌		1) 周辺作物に飛散しないように注意する。	
11. RSH-44 乳剤 ジフルフェナカン 3.7% トリフルアリン 37%	適用性	実・継 (従来通り)	一年生雑草	土壌	播種後出芽前 雑草発生前	200～250 mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除く) 壤土～埴土	東北～四国 九州	1) 碎土、整地、覆土を ていねいに行って、 均一に散布する。 2) 葉に白斑を生じる場合がある。	・ 暖地での適用土 壌の拡大

(3) いぐさ

薬 剤 名	試 験 判 定 種 類	使 用 基 準							継 続 の 内 容
		対 象 雑 草	処 理 法	処 理 時 期	使 用 量 /10a	適 用 土 壌	適 用 地 域	使 用 上 の 注 意	
1. SL-496 粒 剤 ピラジキンフェン 6% ブチラクロール 1.5%	適 用 性								・ 効 果 、 葉 害 の 確 認

(4) 水稲刈跡

薬 剤 名	試 験 判 定 種 類	使 用 基 準							継 続 の 内 容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
1. <u>AK-01</u> 液剤 グ [*] リホサートイソブ [*] ロビ [*] ルアミン塩 41%	適 用 性 実・継	一年生雑 草	茎葉	水稲刈取後 雑草生育期	250～500 mL 散布水量 50～100L	全土壌			・ 多年生雑草に対 する効果の確認
2. <u>Hoe-866</u> 液剤 グ [*] ルホネート 18.5%	適 用 性 実・継	一年生雑 草	茎葉	水稲刈取後 雑草生育期	300～500 mL 散布水量 100～150 L	全土壌			・ 多年生雑草に対 する効果の確認
		多年生雑 草			500～ 1000mL 散布水量 100～150 L				
3. <u>NH-007</u> フロアブル剤 ピ [*] ラフルフェンエチル 0.16% グ [*] リホサートイソブ [*] ロビ [*] ルアミン塩 30%	適 用 性 実・継	一年生雑 草	茎葉	水稲刈取後 雑草生育期	400～600 mL 散布水量 100L	全土壌			・ 多年生雑草に対 する効果の確認
4. <u>WOC-01</u> 液剤 グ [*] リホサートイソブ [*] ロビ [*] ルアミン塩 41%	適 用 性 実・継	一年生雑 草	茎葉	水稲刈取後 雑草生育期	250～500 mL 散布水量 <u>25～100L</u>	全土壌		1) 少水量散布の場合は 専用ノズルを使用す る。	・ 散布水量25. 50 Lでの年次変動 の確認 ・ 多年生雑草に対 する効果の確認
		多年生雑 草			500～ 1000mL 散布水量 <u>25～100L</u>				

(5) 水田畦畔

薬剤名	試験判定 種類	使用基準							継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
1. DBN6.7 粒剤 (北興化学) DBN 6.7%	適用性	一年生雑草、多年生広葉雑草 (マメ科雑草を除く)、スギナ	土壌	秋冬期～春期 (雑草発生前～始期)	4～6kg	全土壌			
2. DBN6.7 粒剤 (アグロネショウ) DBN 6.7%	適用性	一年生雑草、多年生広葉雑草 (マメ科雑草を除く)、スギナ	土壌	秋冬期～春期 (雑草発生前～始期)	4～6kg	全土壌			
3. DBN4.5 粒剤 (アグロネショウ) DBN 4.5%	適用性・継続	一年生雑草、多年生広葉雑草 (マメ科雑草を除く)、スギナ	土壌	秋冬期～ <u>春期</u> (雑草発生前～始期)	6～8kg	全土壌			・ 年次変動の確認

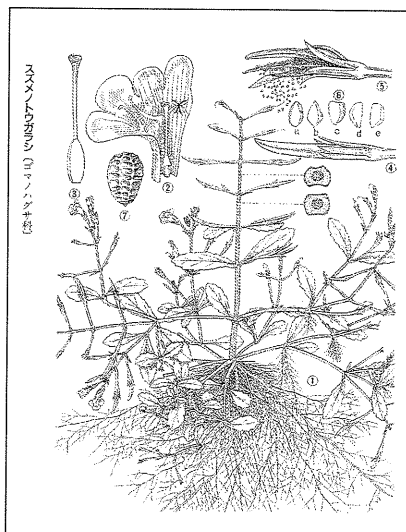
植物生態図鑑の決定版

浅野貞夫日本植物生態図鑑

A4判、636頁(うちカラー40頁) 定価13,000円+税

わが国には植物の分類図鑑は数多く出版されているが、本格的な植物生態図鑑は皆無に等しい。本書は植物を生態学的にとらえ、環境、気候、植物季節、種子重量、休眠型、散布器官型、地下器官型、生育型等を図と解説で判るように編集した本格的な植物生態図鑑である。

著者浅野貞夫は、植物の一生を追跡しながら春～冬、芽ばえ、花から果実、種子、休眠芽まで、特に休眠芽は季節、季節に根を掘り克明に観察し、1種類の植物の一生を2～3年かけて完成した。こうして50有余年をかけて555種類の植物図を完成した。これを1冊にしたのが本書で、日本は勿論、世界でも類を見ない植物生態図鑑である。



全国農村教育協会

東京都台東区台東1-26-6 〒110-0016

電話 03 (3839) 9160 (営業) FAX 03 (3839) 9172 (営業)
thhp://www.zennokyo.co.jp e-mail:hon@zennokyo.co.jp